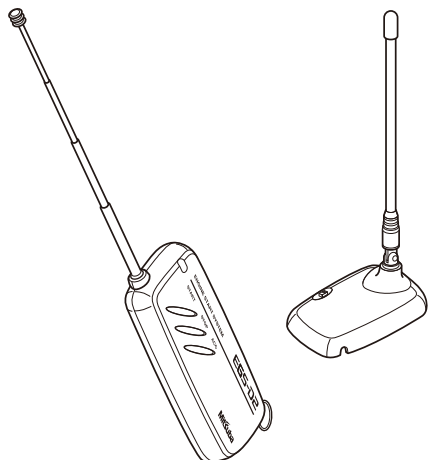


アンサーバック リモコンエンジンスターター

EGS-D2

REMOTE CONTROL ENGINE STARTER EGS-D2 WILL OFFER YOU TO ENRICH YOUR CAR LIFE.

取付・取扱説明書



- ☆このたびは、EGS-D2をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要な時ご利用出来るように大切に保管して下さい。
- ☆本商品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず商品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にして下さい。
- ☆本商品は日本国内でのみご使用出来ます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。
各マークの意味は次の通りです。

.....

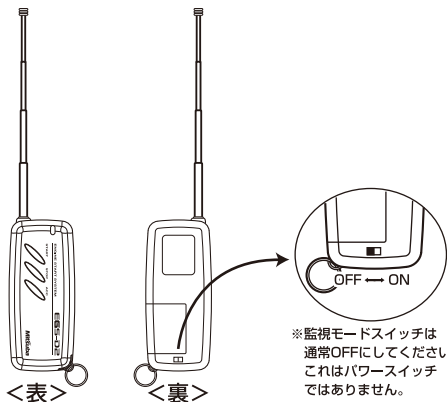
⚠ 危険 取扱を誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。

⚠ 警告 取扱を誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。

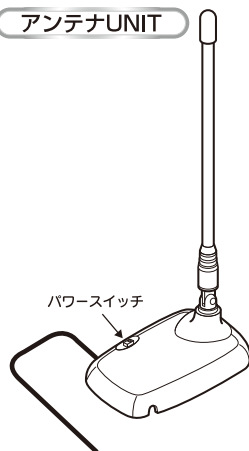
⚠ 注意 取扱を誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また、商品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

パッケージ内容 ※接続前に、内容をお確かめ下さい。

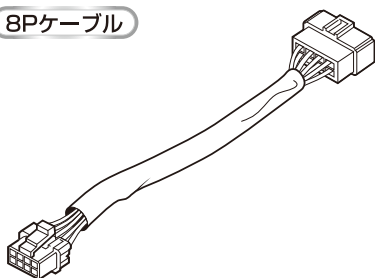
リモコン



アンテナUNIT

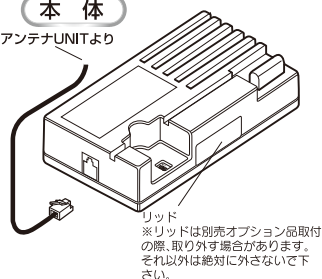


8Pケーブル

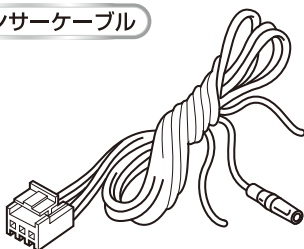


本体

アンテナUNITより



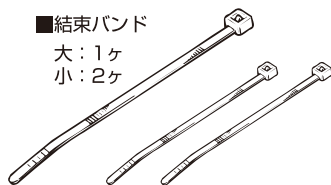
安全センサーケーブル



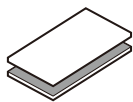
付属部品セット

■結束バンド

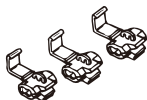
大：1ヶ
小：2ヶ



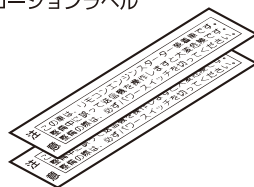
■マジックテープ



■エレクトロタップ



■コーションラベル



■取付・取扱説明書



■保証書



はじめに	■パッケージ内容	2
	■目次	3
	■取り付け可能な車の条件	4
	■安全に使用するための注意	5~7
	□安全上の注意	(5~6)
	□使用上の注意	(7)
取り付け作業	■取り付け前の準備	8
	■取り付け概念図	8
	■専用ハーネス・アンテナUNIT・本体の接続	9
	■オートマチック車の登録	10
	■動作確認をします	11
	□エラー発生時のQ&A	(11)
	■仕上げ	12
	□アンテナUNITの取り付け	(12)
	□本体の取り付け	(12)
	□コーションラベルの貼り付け	(12)
	■うまく動作しない場合の対応	13~16
	□L端子検出方式への変更	(13)
	□L端子誤配線チェック機能	(13)
	□フットブレーキ検出方式への変更	(14)
操作方法	□始動パターンの切替	(15)
	□キー始動学習機能の設定	(16)
	■リモコンでエンジン始動	17
	■リモコンでエンジン停止	17
	■リモコンでエンジンの状態を確認する（アンサーバック）	18
	□エンジン始動の確認	(18)
	□エンジン停止の確認	(18)
	■タイマーで自動停止	18
	■アイドリング時間の設定	19
	■ターボタイマー機能について	20~21
オプション	□ターボタイマーの設定／解除方法	(20)
	□ターボタイマーの使用方法	(21)
	□リモコンでターボタイマー停止	(21)
	■スリープ機能について	21
	■本機の電源を切る時は	21
	■運転席ドアスイッチ配線を行う場合	22
その他	■ボンネットスイッチ（別売）を取り付ける場合	23
	■ボンネットスイッチ（別売）取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合	23
	■「ミツバG-System」について	24
	□本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品进行操作する場合	(24)
	■オプション（別売）品のご案内	25
	■拡張機能について	26
その他	■メンテナンス	27
	□電池の交換方法	(27)
	■故障かな？と思ったら	28~29
	■仕様	30~31
	□リモコンのブザー音とLED表示について	(30)
	□本体のブザー音について □本体部のモードスイッチについて	(30)
	■アフターサービスについて	32

取り付け可能な車の条件

●「適応車種一覧表」に記載されている車種であること。

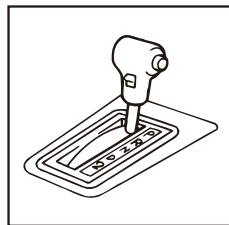
他のエンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないで下さい。「適応車種一覧表」をよくご覧になり、車に適した当社製専用ハーネスをご使用下さい。

●スターター作動時間が2.5秒以内でエンジンが始動出来る車である事。

適応車種は、以下の条件を考慮して選定しております。

○オートマチック車であること。

本体のオートマチック車判別機能により、マニュアル車への取り付けは出来ません。

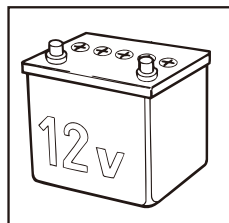


○国産車であること。

外国車への取り付けは出来ません。

○12V車であること。

24V車への取り付けは出来ません。



○電子燃料噴射装置搭載車であること。

電子燃料噴射装置搭載車、及び一部のディーゼル車で、イグニッションキーのみでエンジンが始動する事が出来る車のみ、取り付けが可能です。エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とする車、電子制御キャブレター搭載車への取り付けは出来ません。

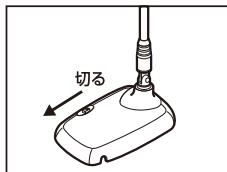


○イモビライザーを搭載していない車であること。

イモビライザー搭載車では指定のキー以外でのエンジン始動が出来ません。

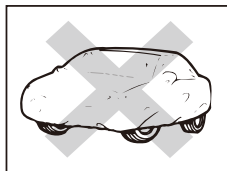
安全上の注意

危険

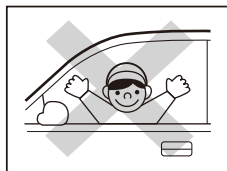


下記の場合には、パワースイッチを切って下さい。事故の恐れがあります。

- 整備、車検等で車を預ける場合。
- 整備、車検等を行う場合。
- 当商品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。



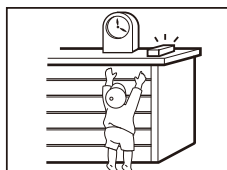
車にボディーカバー等を掛けたままで使用しないで下さい。火災の恐れがあります。



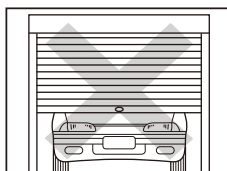
人(特にお子様)やペットが車内にいる時は、絶対にエンジンを始動しないで下さい。お子様による車の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。



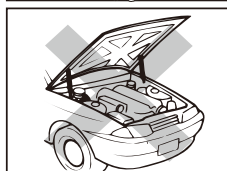
リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに燃えやすい物がないことを確認して下さい。火災の恐れがあります。



リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。事故の恐れがあります。

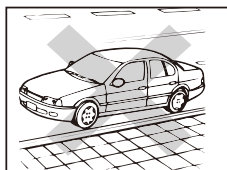


密閉されたガレージ内では使用しないで下さい。排気ガスが充満して危険です。

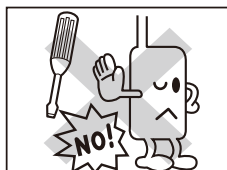


ボンネットを開ける時はパワースイッチを切って下さい。安全のため別売のボンネットスイッチの取り付けをお勧めします。事故の恐れがあります。

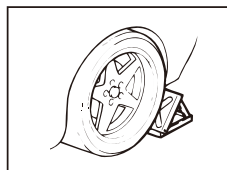
警告



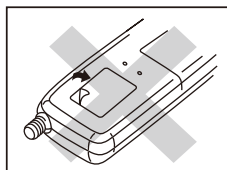
公道上では使用しないで下さい。公道上での使用は違法となります。



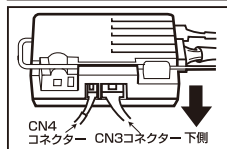
この商品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



斜面で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。



リモコン及びアンテナUNIT裏面のラベルをはがしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



本体のケーブル接続端子部に、ドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし発火する恐れがあります。オプション品の取り付け等で、リッドを外した場合には、本体のCN3、CN4のコネクター面が下を向くように設置して下さい。

安全に使用するための注意

⚠ 注意

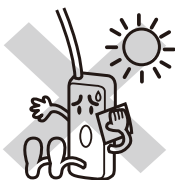


暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をされる恐れがあります。
ご注意ください。

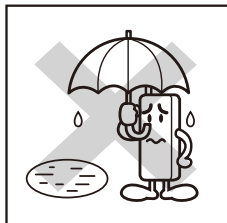
ターボタイマー



指定の盗難警報機（別売）を除き、他のエンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対しないで下さい。故障や誤動作の原因となります。



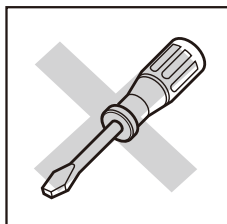
リモコンは、高温になる場所には放置しないで下さい。変形、変色や故障の原因となります。



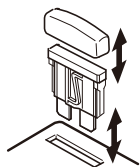
リモコン、アンテナUNIT、本体は水に濡らさないで下さい。衣類のポケット等に入れたまま、洗濯しないように充分ご注意ください。故障の原因となります。



リモコンは落としたり、硬い物にぶつけしないで下さい。また、アンテナは無理な力で引き伸ばしたり、収納したりしないで下さい。故障の原因となります。



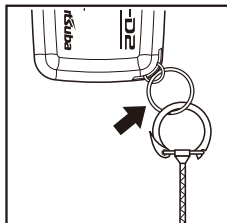
本体の内部に異物を入れないで下さい。又、分解、改造は絶対にしないで下さい。故障の原因となります。



ヒューズ切れの直後はヒューズ部が高温となりますので、交換には注意して下さい。又、交換作業後はヒューズキャップを必ずつけて下さい。尚、一部車種については動作中、ヒューズ周辺の温度が上がる場合がありますのでご注意ください。

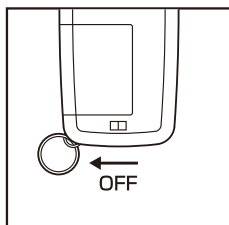


リモコン本体が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってふき、乾いた布でもう一度ふいて下さい。ベンジン、シンナー等は絶対に使用しないで下さい。変形、変色や事故の原因となります。

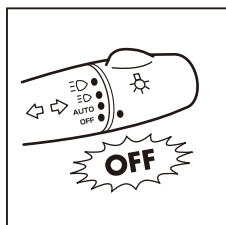


リモコン本体にキーホルダー等を取り付ける場合は、必ず付属のホルダーリングに取り付けて下さい。破損の原因となります。

使用上の注意

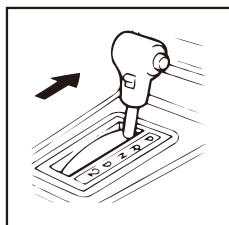


リモコン裏面のスイッチはパワースイッチではありません。監視モードスイッチは通常「OFF」の状態で使用して下さい。
監視モード対応商品を取り付け、その機能を使用する時のみ「ON」にします。「ON」の位置で使用すると電池を著しく消耗します。

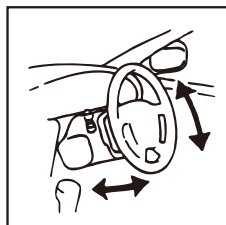


オートライト装着車に取り付けの場合、オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。そのためバッテリー上がり原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用下さい。

一部の車種では「オートライトアダプター」(別売)をお取り付け頂くことで、オート状態でも使用出来るようになります。

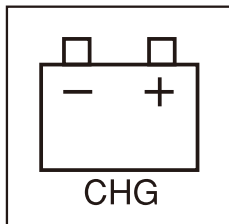


シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用して下さい。Nレンジでは使用しないで下さい。パーキングブレーキは、必ずかけて下さい。



オートチルト及びマイコンブリセットステアリング装着車にお取り付けの場合、リモコンでのアイドリング中に、車のキーを差し込んでもステアリング機能は働きません。エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行って下さい。

ドアスイッチ配線を行う事で、ドアを開けると同時にエンジンを停止させる事も出来ます。詳しくは22ページを参照して下さい。



キーでエンジンを始動した後に、充電警告灯が消えない車は、エンジンスターターを使用せずに車の点検整備をして下さい。

●リモコンドアロックあるいは、キーレスエントリー装着車では、エンジン駆動中(本機リモコンでのエンジン駆動中も含む)リモコンによるドアロック・アンロックの操作が出来なくなる車種があります。一度エンジンを止めるか、キーでドアを開けて下さい。
「キーレスアダプター」(ミツバG-System:別売)をお取り付け頂く事で、本機リモコンのACCスイッチでドアロック・アンロックが出来るようになります。
(但し、一部の車種を除きます。必ず「適応車種一覧表」でご確認下さい。)

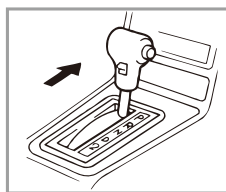
●バッテリーの弱っている車や改造車では、正常にエンジン始動出来ない場合があります。

●環境保護のため必要以上のアイドリングは行わないで下さい。

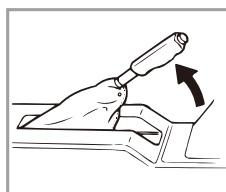
●リモコンを操作する時はアンテナを十分に伸ばして下さい。
電波到達距離は、周囲の環境、アンテナUNITの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると到達距離は短くなります。また、送信時にアンテナを収納したりリモコンを手等で覆うと短くなりますので、ご注意下さい。

●寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで2.5秒以内にエンジンが始動するように車を整備して下さい。

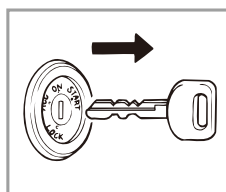
取り付け前の準備



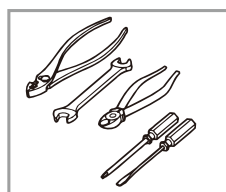
●シフトレバーは、必ずパーキングレンジに入れて下さい。



●パーキングブレーキは確実にかけして下さい。

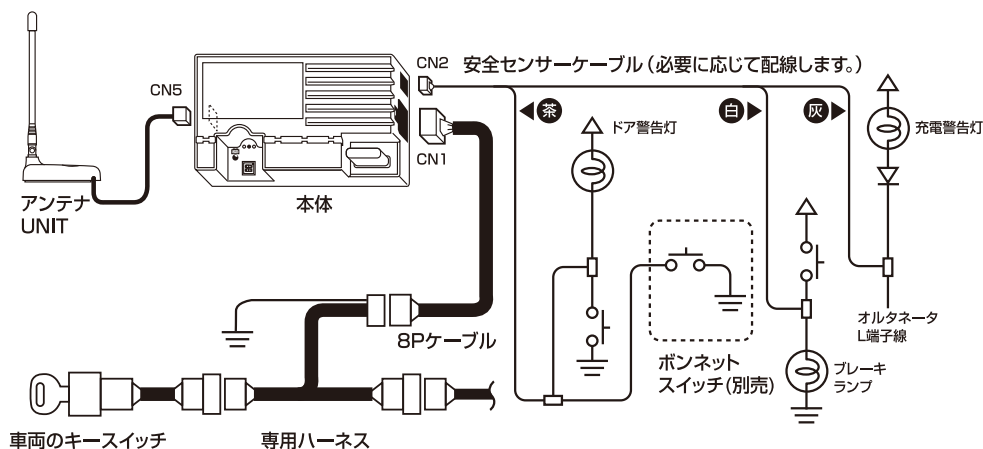


●車のキーは必ず抜いて下さい。



●取り付け工具について。
プラスドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・テスター等。工具は本商品には同梱されていないので、別途ご用意下さい。

取り付け概念図



専用ハーネス・室内アンテナ・エンジンstarter本体の接続

ステップ 1

キースイッチの配線カプラーを探します。

配線カプラーの位置は大別すると次のようになります。詳しくは「EGSシリーズ適応車種一覧表」をご参照下さい。

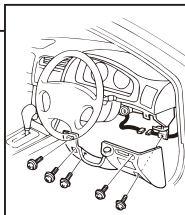
メモ キースイッチの配線カプラーは基本的に車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なので、それを目安にしてください。

■タイプ1

- アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

メモ

アンダーカバーを外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

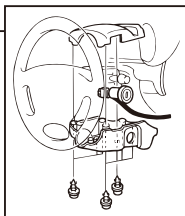


■タイプ2

- ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

メモ

ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってはステアリングを90度回転しないとネジが外せない場合があります。

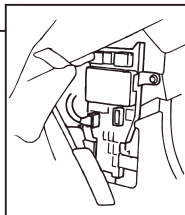


■タイプ3

- ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接、接続されているタイプ。

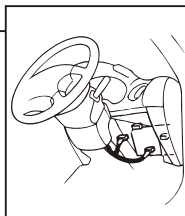
メモ

ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。



■タイプ4

- 配線カプラーが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものもあります。



ステップ 2

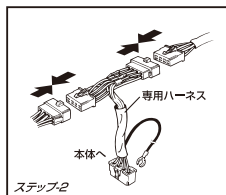
専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーを一旦外します。

車種別専用ハーネスを、外したカプラーの間に割り込ませます。

注意

カプラーの接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。本機がうまく作動しないことがあります。



ステップ2

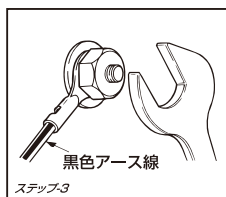
ステップ 3

アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーのマイナスに接続されます。接続箇所を充分確認の上、適正な場所に接続して下さい。

注意

塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けないで下さい。動作が不安定となり、オートマチック車の登録情報が消去されたり、エンジンが始動しない等の不具合が生じます。



ステップ3

ステップ 4

エンジンstarter本体と専用ハーネスを接続します。

エンジンstarter本体のコネクター部(CN1)と専用ハーネス先端コネクター部を8Pケーブルで接続します。

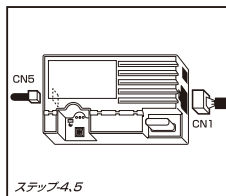
ステップ 5

エンジンstarter本体と室内アンテナを接続します。

エンジンstarter本体のコネクター部(CN5)と室内アンテナから出ているケーブルを接続します。

注意

ケーブル接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。本機がうまく作動しないことがあります。



ステップ4,5

以上で接続は終了です。

次に必ずオートマチック車の登録をして下さい。

オートマチック車の登録

登録作業中はエンジンを始動させないで下さい。誤って始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

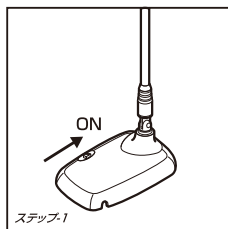
ステップ1

アンテナUNITのパワースイッチをONにします。

この時、本体から、「ブーブー ブーブー…」と断続音が鳴り続けます。

メモ

ブザーが鳴らない場合は、アースが確実に取れているか、また車種別専用ハーネスの品番が間違っていないか、再確認して下さい。



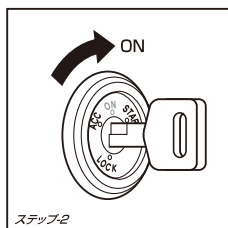
ステップ2

キーをONの位置にします。

この時、本体からの断続音が、「ブブッ ブブッ…」の2連音へと変化します。

メモ

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。もし始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。



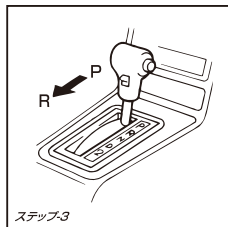
ステップ3

シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

本体からの断続音が、「ブブブッ ブブブッ…」の3連音へと変化します。

注意

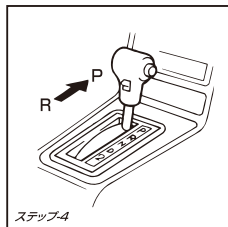
シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。断続音が変わる事を必ず確認して下さい。断続音が変わらない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認して下さい。(追加配線を行う必要があります。)なお、追加配線後はステップ1からやり直して下さい。



ステップ4

シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時、本体から「ブブブッ ブー」と音が鳴り、オートマチック車の登録が終わった事を知らせて鳴り止みます。



ステップ5

キーをOFFにします。

メモ

車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には再度オートマチック車の登録を行って下さい。

以上でオートマチック車の登録は終了です。



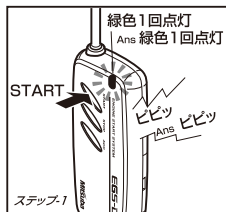
警告

周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりと引いて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにしてください。

ステップ1

リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビビッ」が鳴るまでスタートスイッチを押し続けます。この時LED緑色が1回点灯します。その後、約1秒後にアンサーバック音「ビビッ」が鳴り、同時にLED緑色が1回点灯します。



ステップ2

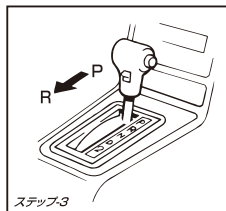
車のエンジンが始動します。

本体が信号を受信すると、数秒後にスターターが回りエンジンが始動します。エンジン始動後は、本体から警告音「ブッ」が数秒間隔で鳴り続けます。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ (再始動) 動作を行います。

ステップ3

シフトセンサーの確認をします。

リモコンでエンジンが始動した後、キーを差さずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。



車種によっては、キーを差さないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで回して確認して下さい。

以上で動作確認は終了です。

エラー発生時のQ&A

Q (症状)

- ステップ1でリモコンスタートスイッチ操作1秒後のアンサーバック音「ビビッ」及びLED緑色の点灯状態が説明と異なるのですが…?
- エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動 (リトライ) が行われてしまうのですが…?
- エンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまうのですが…?
- 寒冷時に始動がうまく行われないのですが…?
- スターターモーターの駆動時間が短いために、1回目のスターター駆動でエンジンがからず、リトライしてしまうのですが…?
- リモコン操作による始動後にABS警告灯が点灯しないのですが…?
- リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しないのですが…?

A (対処方法)

- | アンサーバック音 | リモコンLED | 状態 | 対処 |
|----------|---------|----------------------------|---|
| ブーブー | 橙色2秒点灯 | アンテナUNITからのアンサー信号が受信出来ません。 | アンテナUNITのパワースイッチが入っていません。スイッチをONにしてください。 |
| ブブー | 点灯しない | アンテナUNITと本体とのシステムエラーです。 | アンテナUNITのケーブルがきちんと本体に接続されています。しっかりと接続して下さい。 |
| ブブブブ | 橙色4回点滅 | キャリアセンス確認エラーです。 | 近くで同じ周波数 (429MHz) を使用した無線機器が電波を送出中です。暫く時間 (数秒程度) を置いてからもう一度操作して下さい。 |
- ▶ エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。
詳しくは、13ページの「**L端子検出方式への変更**」を参照して下さい。
 - ▶ 一部のディーゼル車等でグロー (予熱) 時間が足りない事が考えられます。
詳しくは、15ページの「**始動パターンの切替**」を参照して下さい。
 - ▶ スターターモーターの駆動時間を学習させることが出来ます。
詳しくは、16ページの「**キー始動学習機能の設定**」を参照して下さい。
 - ▶ キー始動学習を行う事で警告灯が消灯ようになります。
詳しくは、16ページの「**キー始動学習機能の設定**」を参照して下さい。
 - ▶ オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。
詳しくは、14ページの「**フットブレーキ検出方式への変更**」を参照して下さい。

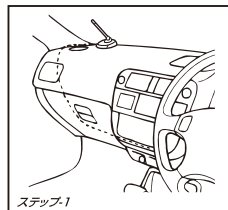
アンテナUNITの取り付け

ステップ 1

アンテナUNITを設置します。

ダッシュボードのサイドビラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。

マジックテープは、アンテナUNIT裏面のラベルを避けて貼って下さい。

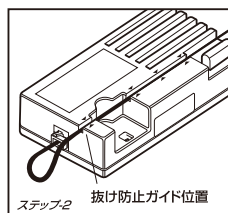


ステップ1



警告

アンテナUNITは、運転の妨げにならない場所に設置して下さい。アンテナを手前寄りに取り付けた場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかり固定して下さい。エアバック装着車には、エアバックカバー部へ固定しないで下さい。エアバック作動時にケガをする恐れがあります。



ステップ2

ステップ 2

本体の抜け防止ガイドにアンテナUNITのケーブル線を固定して下さい。

本体の取り付け

ステップ 1

配線したケーブル類を整理します。

これまでに配線した、ケーブル類、専用ハーネス等をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定して下さい。また接続していないギボシ端子は、ビニールテープ等で絶縁して下さい。



警告

配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本体や車の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。

ステップ 2

本体を設置します。

本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の結束バンド等を使用して設置します。



警告

本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないで下さい。ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には設置しないようにして下さい。本体が緩衝した場合、運転操作を妨げる恐れがあります。

ステップ 3

外したアンダーカバー等を元に戻します。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去して下さい。



危険

ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

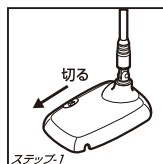
以上で取り付けは終了です。

L端子検出方式への変更

ステップ 1

アンテナUNITのパワースイッチを切ります。

既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ1

ステップ 2

車のオルタネーターから出ているL端子線を探します。

L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1~3V、エンジンが駆動している時、約12~14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)

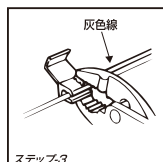


ステップ2

ステップ 3

安全センサーケーブルの灰色線を接続します。

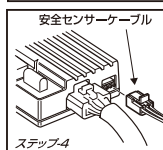
安全センサーケーブルの灰色線をグロメット等を利用して、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)



ステップ3

ステップ 4

安全センサーケーブルを本体のコネクター部(CN2)に接続します。

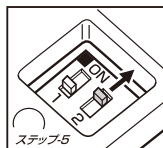


ステップ4

ステップ 5

本体のモードスイッチの2番をONにします。

スイッチが小さいため、ボールペンの先端等で行って下さい。



ステップ5

以上でL端子配線は終了です。

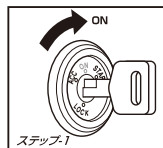
パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認して下さい。
なお、本商品は、L端子配線を行った際、接続したL端子が正しいか否かを、本体の「CHGランプ」の点灯状態で確認する事が出来ます(L端子誤配線チェック機能)。この機能はモードスイッチの2番がONの時のみ行う事が出来ます。

L端子誤配線チェック機能

ステップ 1

キーをONの位置にします。

この時本体の「CHGランプ」が点灯する事を確認します。「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。配線先を見直して下さい。

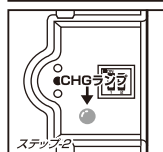


ステップ1

ステップ 2

上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線の接続先は正しく配線されています。「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線の接続先が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。なお、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。(本体から「ピーピー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ2

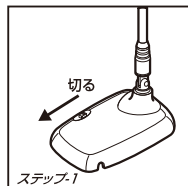
以上でL端子誤配線チェックは終了です。

うまく動作しない場合の対応

フットブレーキ検出方式への変更

ステップ1 アンテナUNITのパワースwitchを切ります。

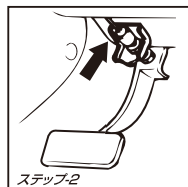
既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ2 車のフットブレーキスイッチを探します。

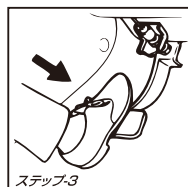
フットブレーキスイッチはブレーキペダルの根元付近にあります。

メモ フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキの事ではありません。



ステップ3 ブレーキペダルを踏んだとき12Vになる線を見つけます。

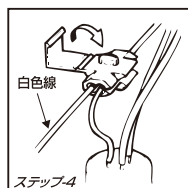
フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだときに12Vになる線を見つけて下さい。(必ずテスターをご使用下さい。)



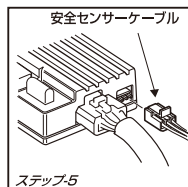
ステップ4 安全センサーケーブルの白色線を接続します。

安全センサーケーブルの白色線を、ステップ3で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

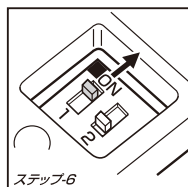
注意 接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。
フットブレーキ検出がうまく行けない場合があります。



ステップ5 安全センサーケーブルを本体のコネクター部(CN2)に接続します。



ステップ6 本体のモードスイッチの1番をONにします。



以上でフットブレーキ配線は終了です。

パワースwitchをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだ時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

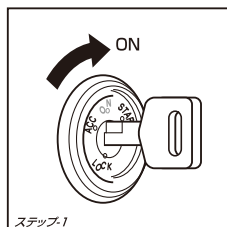
始動パターンの切替

一部のディーゼル車等で、グロー(予熱時間)が必要な場合、以下の操作をする事によりグローを設定する事が出来ます。グローは6秒です。お取り付け時はグロー設定が解除されています。

ステップ
1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ
2

10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

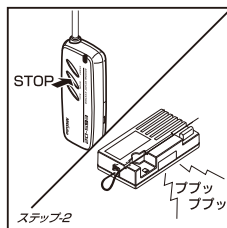
本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の2連音が鳴ります。
この時、リモコンは以下の表示をします。

リモコンの送信表示 【音「ピーッ」、LED赤色1回点灯】

リモコンのアンサー表示 【音「ピーッ・ピーッ」、LED赤色2秒点灯】



10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブーブー」、
LED橙色2秒点灯】となります。



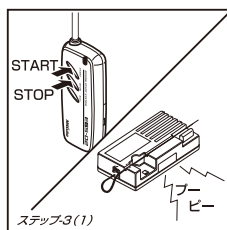
ステップ
3

30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのストップスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、
本体から「ビービー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。
キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)グロー(予熱時間)を設定する場合。

リモコンのスタートスイッチとストップスイッチを同時に押します。
本体から「ブービー」という音がして、グローが設定されたことを知らせ、
鳴り止みます。

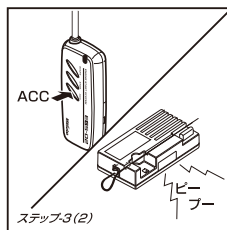


(2)グロー(予熱時間)を解除する場合。

リモコンのACCスイッチを押します。
本体から「ビービー」という音がして、グローの設定が解除されたことを知らせ、
鳴り止みます。



リモコンのACCスイッチは押す毎に、「ビー・ビッ」と「ビビビ
ビッ」音が交互に鳴ります。



ステップ
4

キーをOFFにします。

以上で始動パターンの切替は終了です。

うまく動作しない場合の対応

キー始動学習機能の設定

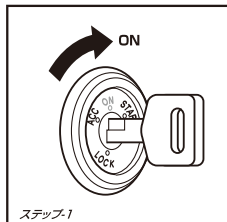
次の様な場合には、キー始動学習機能を設定して下さい。
(エンジン停止状態から始めて下さい。)

- リモコン始動時にABS警告灯が点灯したままとなってしまう。
- スターターモーター駆動時間が短かすぎてエンジンがかかりにくい。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ 2

10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

本体から断続音「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

この時、リモコンは以下の表示をします。

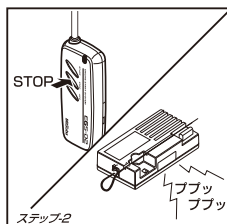
リモコンの送信表示	【音「ピーッ」、LED赤色1回点灯】
リモコンのアンサー表示	【音「ピーッ・ピーッ」、LED赤色2秒点灯】



10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。

キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。

10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブーブー」、LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ 3

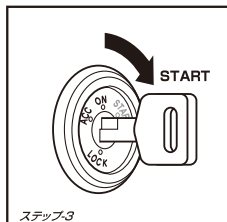
30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

本体から「ブブブブー」と音が鳴りキー始動学習が行われた事を知らせ、鳴り止みます。この時にスターターモーター駆動時間を「0.8～2.5秒」の範囲で学習し、以降リモコン始動時のスターターモーター駆動時間になります。よって、通常使用時と同一環境下で学習操作を行うと効果的です。

30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。

(本体から「ピーピー」という警告音がします。)

キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ 4

キーをOFFにします。

以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

リモコンでエンジン始動

リモコンでエンジン始動を行う場合は、あらかじめ車を下記の状態にしておいて下さい。

1. アンテナUNITのパワースイッチをONにする。
2. パーキングブレーキを確実にかける。
3. シフトレバーはPレンジに入れる。
4. 必要に応じてエアコンをセットする。
5. オートライト装着車は、ライトスイッチをOFFにする。
6. キーを抜く。

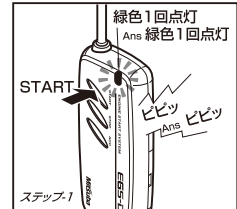
ステップ 1

リモコンのスタートスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビビッ」が鳴るまでスタートスイッチを押し続けます。この時LED緑色が1回点灯します。それから1秒後にアンサーバック音「ビビッ」が鳴り、同時にLED緑色が1回点灯します。



リモコン裏面のスイッチは、パワースイッチではありません。通常「OFF」で使用して下さい。詳しくは、26ページの「拡張機能について」を参照して下さい。



ステップ 2

車のエンジンが始動します。

数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動（リトライ）します。



リモコンによるエンジン駆動中は、リモコン始動直後から数秒間隔で本体から警告音「ビッ」が鳴り始め、残り時間に連動して徐々に短くなり、自動停止1分前は連続音へと変わり、使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

ステップ 3

走行します。

車のキーを差し込み、ONの位置まで回して下さい。あとは通常通り走行出来ます。なお、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。



警告

キーを回す際に、誤ってSTART (STT) の位置まで回すとスターターモーターを傷める場合があります。

リモコンでエンジン停止

本機によるエンジン駆動中は、リモコン操作でエンジンを停止することが出来ます。

ステップ 1

リモコンのストップスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ピーツ」が鳴るまでストップスイッチを押し続けます。この時LED赤色が1回点灯します。それから1秒後にアンサーバック音「ピーツ」が鳴り、同時にLED赤色が1回点灯します。



ステップ 2

車のエンジンが停止します。

リモコンでエンジンの状態を確認する(アンサーバック)

本機はリモコンによるエンジン始動・停止を行った後、アンサーバックによりエンジンの状態を確認することが出来ます。

エンジン始動の確認

ステップ

1

スタートスイッチを押します。

リモコン送信表示【音「ピピッ」、LED緑色1回点灯】がされます。



ステップ

2

アンサーバックを確認します。

(送信表示の約1秒後に表示されます。)

(a) エンジンが停止しているため始動を開始します。

→【音「ピピッ」、LED緑色1回点灯】



(b) エンジンを始動(リトライ含む)中です。

→【音「ピピピッ」、LED緑色2回点滅】



(c) エンジンを駆動(アイドリング)中です。

→【音「ピピピピピッ」、LED緑色2秒点灯】

エンジン停止の確認

ステップ

1

ストップスイッチを押します。

リモコン送信表示【音「ピーッ」、LED赤色1回点灯】がされます。



ステップ

2

アンサーバックを確認します。

(送信表示の約1秒後に表示されます。)

(a) エンジンが駆動しているため停止します。

→【音「ピーッ」、LED赤色1回点灯】



(b) エンジンは既に停止しています。

→【音「ピーッ・ピーッ」、LED赤色2秒点灯】

タイマーで自動停止

始動後約20分(初期状態)でエンジンは自動停止します。自動停止時間は「10分/20分/30分」に変更することが出来ます。詳しくは19ページの「アイドリング時間の設定」を参照して下さい。

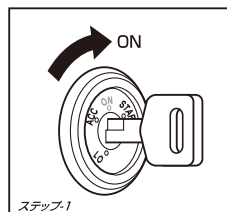
アイドリング時間の設定

本機は、リモコン始動の自動停止時間を「10分/20分/30分」のいずれかに変更する事が出来ます。
お取り付け時(初期状態)のアイドリング時間は「20分」です。

ステップ
1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ
2

10秒以内にリモコンのスタートスイッチを押します。

本体から断続音「ブブブ ブブブ…」の3連音が鳴ります。
この時、リモコンは以下の表示をします。

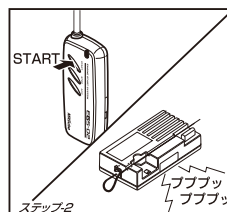
- | | |
|-------------|---------------------|
| リモコンの送信表示 | 【音「ビビッ」、LED緑色1回点灯】 |
| リモコンのアンサー表示 | 【音「ビビビッ」、LED橙色3回点滅】 |



10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。

キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。

10秒以上経過した場合のアンサー表示は【音「ブーブー」、LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ
3

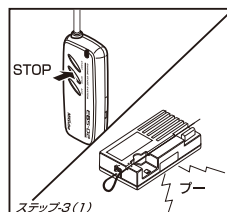
30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのスタートスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)『10分』に設定する場合。

リモコンのストップスイッチを押します。

本体から「ブー」という音がして、10分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



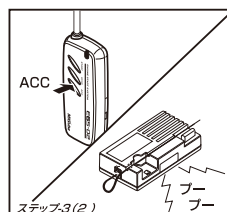
(2)『20分』に設定する場合。

リモコンのACCスイッチを押します。

本体から「ブーブー」という音がして、20分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



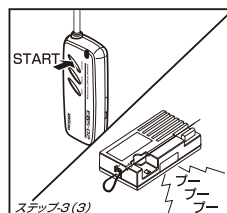
リモコンのACCスイッチは押す毎に、「ピー・ビッ」と「ビビビビッ」音が交互に鳴りますが、設定には支障がありません。



(3)『30分』に設定する場合。

リモコンのスタートスイッチを押します。

本体から「ブーブーブー」という音がして、30分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ
4

キーをOFFにします。

以上でアイドリング時間の設定は終了です。

ターボタイマー機能について

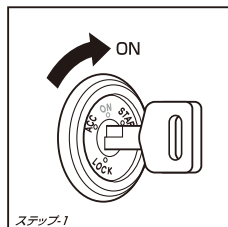
ターボタイマーの設定/解除方法

お取り付け時(初期状態)はターボタイマーの設定が解除されています。

ステップ
1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



ステップ
2

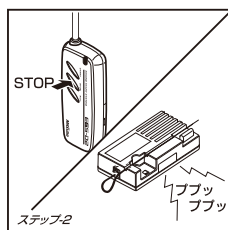
10秒以内にリモコンのストップスイッチを押します。

本体から断続音「ブプッ ブプッ…」の2連音が鳴ります。
この時、リモコンは以下の表示をします。

リモコンの送信表示	【音「ピーツ」、LED赤色1回点灯】
リモコンのアンサー表示	【音「ピーツ・ピーツ」、LED赤色2秒点灯】



10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブーブー」、
LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ
3

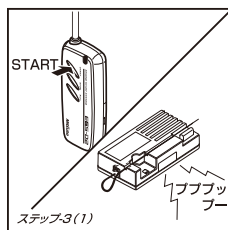
30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのストップスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)ターボタイマーを設定する場合。

リモコンのスタートスイッチを押します。

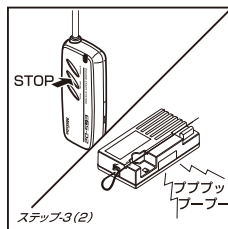
本体から「ブブブブー」という音がして、ターボタイマーが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



(2)ターボタイマーを解除する場合。

リモコンのストップスイッチを押します。

本体から「ブブブブーブー」という音がして、ターボタイマーの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ
4

キーをOFFにします。

以上でターボタイマーの設定/解除は終了です。

ターボタイマー機能について

ターボタイマーの使用方法

本機のターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。
アフターアイドルリングの時間は、車の走行状況に合わせて自動的に設定されます。

ステップ 1 キー、またはリモコンで、エンジンを始動させます。

ステップ 2 走行します。

少なくとも30秒間は走行状態にしないと、ターボタイマーは働きません。

ステップ 3 走行終了後、シフトレバーをPレンジにしてからキーをOFFにします。

本体から「ブブブブ」というカウントダウン音がして、ターボタイマーが作動を開始します。



警告

周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりと引いて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。

- 車によってはターボタイマー作動中にキーが抜けない場合があります。
このような場合は、別売の「日産キーロックアダプター」をご使用下さい。
- 車によっては正常にターボタイマーが作動しない場合があります。
このような場合は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」をご使用下さい。
- ターボタイマーのアフターアイドルリング時間は10秒～2分50秒の範囲で自動的に設定されます。

リモコンでターボタイマー停止

リモコンのストップスイッチを押す事により、ターボタイマー作動中のエンジンを停止させる事が出来ます。

スリープ機能について

車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。スリープ機能が働くと、リモコンによるエンジン始動は出来ません。
スリープ機能を解除するときは、パワースイッチを一度切って入れなおすか、キーを使ってエンジンを始動させて下さい。

本機の電源を切る時は

車を車検・整備に出す時や、旅行等により長期間使用しない場合は安全のため、アンテナUNITのパワースイッチを切して下さい。EGS-W2はメモリー機能により、次回お使いになる際も再度オートマチック車の登録やターボタイマーの設定等は必要ありません。
パワースイッチをONにするだけでスイッチを切る前と同じ状態で使用出来ます。



車種別専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリー端子を外した場合は、再度オートマチック車の登録からやり直す必要があります。

運転席ドアスイッチ配線を行う場合

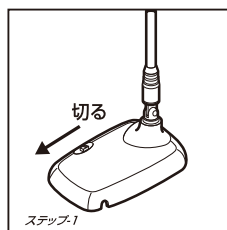
ドアスイッチへの配線を行う事により、リモコン始動でのアイドリング中に、ドアを開けるとエンジンを停止させる事が出来ます。

ステップ

1

アンテナUNITのパワースイッチを切ります。

既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ

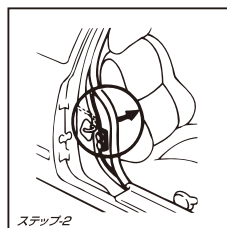
2

車の運転席側ドアスイッチ線を探します。

ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



半ドア警告灯および、ルームランプの点灯をさせるためのスイッチです。



ステップ

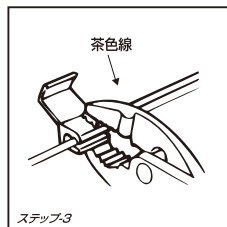
3

安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線先端のギボシ端子部をニッパ等でカットし、ステップ2で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)



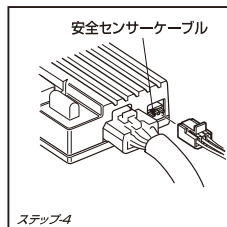
接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。ドアスイッチ検出がうまく行われない場合があります。



ステップ

4

安全センサーケーブルを本体のコネクター部(CN2)に接続します。



以上でドアスイッチ配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

ボンネットスイッチ（別売）を取り付ける場合

ボンネットスイッチ（別売）の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時のリモコンでのエンジン始動が出来なくなり、エンジンルーム内での各種作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付けを行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよくお読み下さい。

ボンネットスイッチ（別売）取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合

ボンネットスイッチ（別売）取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う事で、ボンネットが開いたり、ドアが開いたりしている時は、エンジンが動作しないよう安全確保が出来るようになります。

注意

安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチとドアスイッチの検出を併用するようになっております。両方を配線する場合には別途エレクトロタップ*を1個ご用意頂く事になりますので、あらかじめお願い致します。

また、両方を取り付けた場合、ボンネットを開けると、半ドア警告灯及びルームランプが点灯するようになります。これは本機が車側の安全検出を行う回路により点灯するものであり、異常ではありません。

*【推奨品:自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ適応品】

ステップ 1

車の運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

「運転席側ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ3まで行った後、以下の作業を行って下さい。

ステップ 2

ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチ付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。

ステップ 3

安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をグロメット等を利用してエンジンルーム内から車室内へ引き込み、先端のギボシ端子部をニッパ等でカットします。既にドアスイッチ配線をした安全センサーケーブルの茶色線にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。

注意

接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行われない場合があります。

ステップ 4

安全センサーケーブルを本体のコネクター部(CN2)に接続します。

ステップ2で途中となっていたボンネットスイッチの取り付け作業も完了させて下さい。

以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

パワースイッチをONにして、リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時およびボンネットを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

「ミツバG-System」について



「ミツバG-System」とは、対応商品どうしを組み合わせることにより、プラスアルファの機能が実現出来るように設計されたグレードアップ対応システム商品です。今後、「ミツバG-System」対応商品を随時発売する予定になっています。「ミツバG-System」対応商品を追加接続する場合、別売の接続ハーネスが必要となる場合があります。接続及び取り扱いに関しては、別途、各商品に付属の取扱説明書をよくご覧下さい。

本機は、「ミツバG-System」対応の盗難警報機やキーレスアダプターを取り付けることで、リモコン操作による盗難警報機の制御や、ドアのLOCK/UNLOCKを行うことが出来ます。

お取り付けには、「ミツバG-System」商品に付属の取扱説明書をよく読んで行って下さい。

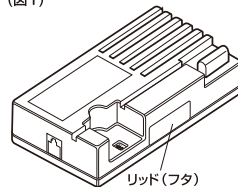
一部の車種ではお取り付け出来ない場合もあります。必ず「EGSシリーズ適応車種一覧表」でご確認下さい。



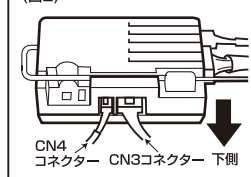
警告

- 「ミツバG-System」対応商品を取り付ける場合、エンジンスターター本体のリッドを外す必要があります(図1)。それ以外ではリッドは絶対に外さないで下さい。必ず室内アンテナのパワースイッチを切って8Pケーブルを取り外してからリッドを外して下さい。そのまま作業しますと、電源ショート等により、故障したり発火する恐れがあります。
- リッドの取り外しは、精密ドライバー等で端からはがすように行って下さい。その際ケガをしないように充分注意して行って下さい。
- 「ミツバG-System」対応商品を取り付けた後、エンジンスターター本体を設置する場合は、CN3、CN4コネクタ面が必ず下を向くようにし、異物が入らないようにして下さい(図2)。

(図1)



(図2)



本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品を操作する場合

「ミツバG-System」対応商品は、本機のリモコンのACCスイッチで操作できます。

ACCスイッチは押す毎に【音「ピーッ・ピッ」、LED緑色ゆっくり2回点滅】と【音「ビビビッ」、LED赤色2回点滅】の送信が交互に切り替わります。

■各操作の一例

オプション 制御	送信表示/アンサー表示		G-System商品の動作一例
	ブザー音	LED表示	
①	送信時：ピーッ・ピッ アンサー時：ピーッ・ピッ	送信時：緑色ゆっくり2回点滅 アンサー時：緑色ゆっくり2回点滅	盗難警報機：セット キーレスアダプター：LOCK
②	送信時：ビビビッ アンサー時：ビビビッ	送信時：赤色2回点滅 アンサー時：赤色4回点滅	盗難警報機：リセット キーレスアダプター：UNLOCK

本機は遠距離からの不用意な操作による盗難警報機のリセット、キーレスのUNLOCKを防ぐため、②の電波到達距離を短くしてあります。周囲の状況にもよりますが電波到達距離は、リモコンのロッドアンテナを収納した状態で5～10m程度、引き出した状態で150～250mになります。



キーがONの位置になっているときは、リモコンのACCスイッチによる操作は受け付けません。また、パワースイッチを切っているときや、スリープ機能が働いているときも、ACCスイッチによる操作は受け付けません。盗難警報機の制御は「セット」と「リセット」のみとなります。

「適応車種一覧表」をよくご覧になり、必要に応じてオプション(別売)をご使用下さい。

●ボンネットスイッチ

車のボンネットが開いている時に、リモコンでのエンジン始動を出来なくする安全装置です。

●ホンダレジェンド用DPSアダプター

レジェンド(型式KA7～9のDPS装着車)ドライビングポジションシステムのチルトステアリングのAUTO機能を作動させることが出来るようになります。

●日産キーロックアダプター

一部の車種でターボタイマーの作動中、キーが抜けなくなるのを防止します。

●ターボタイマーストール防止アダプター

一部の車種でキーをOFFにし、ターボタイマーを作動させる際、インジケーターステアリングランプが一瞬点灯または点灯したままとなったり、エンジンがストール(停止)してしまうのを防止します。

●オートライトアダプター

オートライト装着車の一部車種で、ライトポジションがオート状態のままでも問題なく使用出来るようになります。詳しくは、7ページの「使用上の注意」を参照して下さい。

●キーレスアダプター(ミツバG-System)

本機のリモコン操作でドアのLOCK/UNLOCKが行えるようになります。詳しくは、24ページの「本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品を操作する場合」を参照して下さい。

一部の車種ではモーターキット(別売)が必要になります。必ず事前に「適応車種一覧表」を確認して下さい。

●Gシステム接続ケーブル(ミツバG-System)

本機へGシステム対応の盗難警報機を接続する時に必要になります。

●盗難警報機「ガードッグ・プロ タイプS/タイプR」(ミツバG-System)

Gシステム対応の盗難警報機「ガードッグ・プロ タイプS/タイプR」を接続する事が出来ます。接続後は、本機のリモコン操作でもSET/RESETが行えるようになります。詳しくは、24ページの「本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品を操作する場合」を参照して下さい。

取り付けにはGシステム接続ケーブル(別売)が必要です。

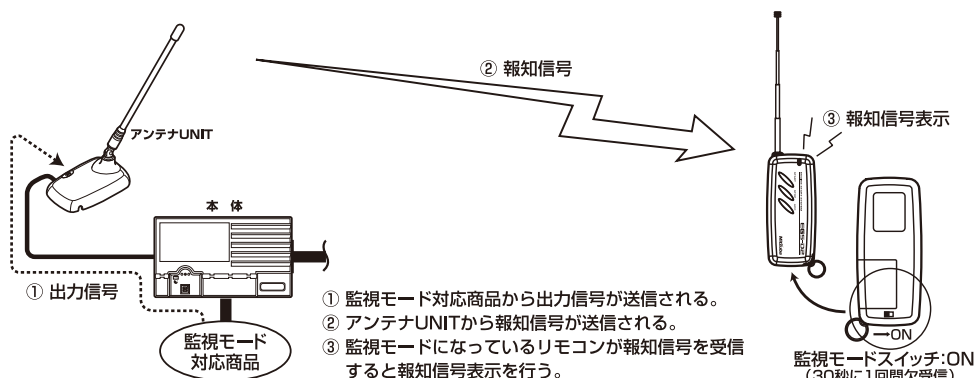
●アンサーバック対応盗難警報機(仮称)・・・近日発売

本機の監視モード機能が使用出来るアンサーバック対応盗難警報機を接続することが出来ます。詳しくは、26ページの「拡張機能について」を参照して下さい。

拡張機能について

本機のリモコンは拡張機能として車からの報知（盗難警報等）信号を間欠受信する監視モード機能を搭載しております。この機能は、監視モード対応商品を取り付けた時に使用出来ます。

例: アンサーバック対応の盗難警報機を組み合わせることで、車の異常を手元のリモコンで確認することができます。



●監視モードとは

リモコンの監視モードスイッチをONにすることで間欠受信の態勢となります。

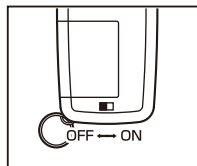
監視モード中にアンテナUNITが報知信号を送信し、それをリモコンが受信すると音とLEDでお知らせします。

- ・リモコンの間欠受信は30秒に1回行います。
- ・アンテナUNITの報知信号は最大40秒の送信となります。この間はリモコンからの送信は出来ません。
- ・リモコンの報知信号表示【音「ピーッ・ピーッ…」、LED緑色と赤色の交互点滅】は連続2分間行います。この報知信号表示を途中で止める場合はリモコンのストップスイッチを押して下さい。その後6秒経過すると、間欠受信を再開します。
- ・監視モードを止める場合は、リモコンの監視モードスイッチをOFFにして下さい。（間欠受信を完全に停止します。）

●監視モードの設定／解除方法

リモコン裏面にある監視モードスイッチで行えます。

- ・監視モードON：スイッチを右にスライドします。（スイッチ開口部が赤となります。）
- ・監視モードOFF：スイッチを左にスライドします。



●監視モード機能のご注意

- ・監視モードスイッチは監視モード機能対応商品を取り付けて、その機能を使用する時のみONにして下さい。それ以外は必ずOFFの位置にしておいて下さい。電池を著しく消耗してしまいます。
- ・リモコンの間欠受信可能距離は、通常のリモコン操作（エンジン始動、エンジン停止等）の電波到達距離に比べ、若干短くなります。間欠受信が可能な距離にあるかどうかは、リモコンのスタートとストップのスイッチを同時に押し、そのアンサー表示で確認する事が出来ます。

確認方法：リモコンのスタートスイッチとストップスイッチを同時に押します。

- ・送信表示【音「ピーッ・ピーッ」、LED緑色1回点灯】その1～2秒後に間欠受信確認の表示をします。
 - 受信OKの時【音「ピーッ・ピーッ」、LED緑色1回点灯】
 - 受信NGの時【音「ブーッ」、LED橙色2秒点灯】
- ・周囲の環境や電波障害等により、間欠受信距離は短くなる事があります。

- ・OA機器（パソコン、FAX等）や家電製品の近くでは、監視モードスイッチをON状態で使用することは避けて下さい。監視モードの間欠受信中は、これらの電磁波ノイズの影響で電池消耗が早くなります。機器からは、1メートル以上離れて使用して下さい。

電池の交換方法

リモコンは新品の電池で約1000回*以上使用出来るように設計されております。使用中、電波到達距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。また、商品に添付されている電池はテスト用のものですので、1000回以内に電池交換が必要になる場合があります。

*使用温度によっては若干少なくなります。

ステップ
1

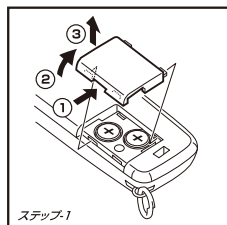
電池蓋を外します。

マイナスドライバーの先端等で電池蓋の端を引き上げるようにして外して下さい。



注意

外す際に、マイナスドライバーの先端等でケガをしないよう、ご注意ください。



ステップ-1

ステップ
2

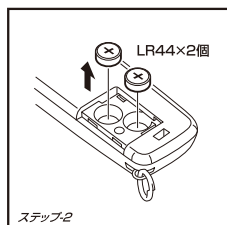
電池を交換します。(アルカリボタン電池LR44×2個)

電池のプラス、マイナスの向きに注意して交換して下さい。

電池のプラス面が蓋側となります。

注意

電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換して下さい。



ステップ-2

ステップ
3

電池蓋を閉じます。

電池のプラス、マイナスの向きが合っていない場合は、電池蓋がうまく閉じませんので、ご注意ください。

ステップ
4

交換後、リモコンの動作確認を行って下さい。

故障かな?と思ったら

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのスイッチを押しても送信表示しない。	・スイッチを押す時間が短くありませんか?	・0.5秒以上スイッチを押して下さい。
	・リモコンの電池は消耗していませんか?	・電池を新品に交換して下さい。
リモコンのスイッチを押しても本体が作動しない。	・車のキーがONになっていませんか?	・キーを抜いて下さい。
	・車のバッテリー端子が外れていませんか?	・端子を接続し「オートマチック車の登録」を行って下さい。
	・15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	・スリープモードになっています。 パワースイッチを一旦切って入れ直すか、 キー操作でエンジンを始動させて下さい。
	・車のバッテリーは弱っていませんか?	・バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	・ドアが開いていませんか? (運転席のドアスイッチ配線を行った場合。)	・ドアを閉めて下さい。
	・ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチを取り付けた場合。)	・ボンネットを閉めて下さい。
	・ドアスイッチへの配線(任意)が間違っていますか?	・正しく配線して下さい。
	・フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか?	・正しく配線して下さい。
	・リモコンのアンサー表示がキャリアセンスによるNGとなっていないですか? NG表示【音「ブブブッ」、LED橙色4回点滅】	・キャリアセンスにより無線送信が出来ません。 しばらくしてから操作して下さい。 (詳しくは、P.30を参照して下さい。)
本体から「ブーブー、ブーブー…」音が鳴っていて、リモコンのスイッチを押しても、まったく作動しない。	・バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか?	・オートマチック車の登録情報が消去されています。再度「オートマチック車の登録」を行って下さい。
	・ヒューズ交換、専用ハーネスとのカプラー脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか?	
リモコンのスタートスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない。	・車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	・車のバッテリーは弱っていませんか?	・バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
リモコンのスタートスイッチを押すと始動動作を行うが、エンジンがかからない。	・オルタネーター(L端子)配線を行いましたか?	・オルタネーター(L端子)配線を行って下さい。 (詳しくはP.13を参照してください。)
	・車のバッテリーは弱っていませんか?	・バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。

このような時	チェックして下さい	処 置
アンテナUNITのパワースイッチをONにしても本体の電源が入らない。	・本体のヒューズが切れていませんか?	・ヒューズを交換して下さい。
	・専用ハーネスのカブラーが外れていませんか?	・カブラーを確実に差し込んで下さい。
	・専用ハーネスの黒色アース線が外れていませんか?	・黒色アース線を確実に接続して下さい。
電波到達距離が短くなった。	・リモコンの電池は消耗していませんか?	・電池を新品に交換して下さい。
	・リモコンのアンテナは伸ばしてありますか?	・リモコンのアンテナを伸ばして下さい。
	・リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか?	・操作の際はアンテナに触れないようにして下さい。
ターボタイマーが作動しない。	・ターボタイマーの設定を行っていますか?	・ターボタイマーの設定をして下さい。
	・車を30秒以上走行させましたか?	・30秒以上走行して下さい。
	・フットブレーキへの配線(必要時)を行っており、フットブレーキを踏んだままキーをOFFにしていますか?	・フットブレーキを踏まずにキーをOFFにして下さい。
	・車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	・ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチを取り付けた場合。)	・ボンネットを閉めて下さい。
リモコンのスタートスイッチを押してもエンジンが始動せず、警告音「ビー・ビー…」が鳴り続ける。	・車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか?	・シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	・車のキーがACCになっていませんか?	・キーを抜いて下さい。
	・専用ハーネスの品番は正しいですか?	・「適応車種一覧表」を再度確認して下さい。 車の車種名・年式・型式を照合後、品番が正しい場合はユーザーサービス係までお問い合わせ下さい。 ★警告音はキーをONにすれば停止します。
リモコンの電池がすぐに消耗してしまう。	・リモコンの監視モードスイッチが常にONとなっていないませんか?	・監視モードを使用しない時は、スイッチをOFFにしておいて下さい。
	・リモコンの監視モードスイッチがONの時に、リモコンをOA機器(パソコンやFAX)の近くで使用していませんか?	・監視モードを使用する場合、リモコンはOA機器からなるべく離して下さい。 (1メートル以上)
リモコンの監視モードスイッチをONにしても間欠受信が出来ない。	・リモコンのアンテナは伸ばしてありますか?	・リモコンのアンテナを伸ばして下さい。
	・リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか?	・アンテナに触れないようにして下さい。
	・間欠受信が可能な距離ですか?	・間欠受信が可能な距離にあるかどうか確認して下さい。 (詳しくは、P.26を参照して下さい。)
	・監視モード対応商品が正しく接続されていますか?	・正しく接続して下さい。

リモコンのブザー音とLED表示について

(各種機能設定[ターボタイマー設定、アイドルング時間設定等]を除く。)

●送信操作時一覧表

スイッチ操作	ブザー音	LED表示	意 味
START	ビッピ	緑色1回点灯	エンジンの始動
STOP	ビッ	赤色1回点灯	エンジンの停止
ACC	ピーッ・ビッ	緑色ゆっくり2回点滅	オプション制御①(キーレス:LOCK・警報機:SET)
	ビビビビッ	赤色4回点滅	オプション制御②(キーレス:UNLOCK・警報機:RESET)
START+STOP	ピーッ・ビッ	緑色1回点灯	監視モード時の間欠受信可能確認

●アンサーバック受信時一覧表

スイッチ操作	ブザー音	LED表示	意 味
START時	ビッピ	緑色1回点灯	エンジンの始動を開始します。
アンサー	ビッピ	緑色2回点滅	エンジンの始動中(リトライ含む)です。
	ビッピビッピ	緑色2秒点灯	アイドルングを行っています。(エンジンスタートorターボタイマー)
STOP時	ピーッ	赤色1回点灯	エンジンを停止します。
アンサー	ピーッ・ピーッ	赤色2秒点灯	エンジンは既に停止中です。
ACC時	ピーッ・ビッ	緑色ゆっくり2回点滅	オプション制御①(キーレス:LOCK・警報機:SET)を行います。
アンサー	ビビビビッ	赤色4回点滅	オプション制御②(キーレス:UNLOCK・警報機:RESET)を行います。
START+STOP時	ピーッ・ビッ	緑色1回点灯	監視モード時の間欠受信が可能です。
エラーを表す アンサー	ブーブー	橙色2秒点灯	アンテナUNITからのアンサーバック信号が受け取れません。
	ブー	なし	アンテナUNITまたは本体に異常があります。
	ブブブブ	橙色4回点滅	キャリアセンス確認エラーのため送信出来ません。(注意2参照)
	ビビビ	橙色3回点滅	安全機能が動作中です。 (ドアスイッチ、ボンネットスイッチ、フットブレーキ検出)

〈注意〉

- 1.イグニッションキーをONにしてから10秒を経過すると、車側のアンテナUNIT(無線の送受信部)は動作を停止します。
- 2.「キャリアセンス」とは電波法で定められており、他の無線機が同一周波数(429MHz)電波を送信(占有)している間は電波を送出する事が出来ません。なお、通信時間には制限がありますので、暫くすると送信が出来るようになります。
- 3.ACCスイッチ操作及びSTART+STOPスイッチ操作は別売オプション品を取付けた時に使用します。

本体のブザー音について

(オートマチック車登録、キー始動学習を除く)

ブザー音	意 味
ブッブッ	本体の電源が入った場合。
ブッ	リモコンによるエンジン始動を自動検出した場合。オルタネータ(L端子)配線が正しい場合。
ブッ	リモコンでエンジンが始動した場合。
ブッ ~ ブー	リモコンでエンジン駆動中。 リモコンでエンジン始動直後から数秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して短くなります。 自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ブブブ	スリープから復帰した場合。
ピーピー	リモコンでエンジンが始動しない場合。
ピーピーピー	リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ピー・ピー …… (繰り返し)	車との相性が悪い(悪くなった)場合。 *ユーザーサービス係へお問い合わせ下さい。 ★警告音はイグニッションキーをONの位置にすれば停止します。

本体部のモードスイッチについて

(商品出荷時は全てOFFとなっております。)

スイッチ番号	モードメニュー	OFF	O N
1	シフト検出	自動検出	キャンセル(通常使用しません。) *フットブレーキへの配線が必要です。(P.14の「フットブレーキ検出方式への変更」を参照。)
2	始動検出	自動検出	オルタネータのL端子線の変化のみで、エンジンの始動状態を検出する *L端子線への配線が必要です。(P.13の「L端子検出方式への変更」を参照。)

●リモコン

型式名	: HX-06M
技術基準	: ARIB STD-T 67 特定小電力無線局 テレメータ・テレコントロール・データ伝送用無線設備
使用周波数	: 429MHz
通信方式	: 単信方式
送信出力	: 10mW以下
スイッチ	: スタート/ストップ/ACC
送信確認方式	: ブザー、LED
送信時間	: 約1秒
送信休止時間	: 2秒以上
アンテナ	: ロッドアンテナ
動作温度範囲	: -20℃～+60℃
定格電圧	: DC3V
使用電池	: アルカリボタン電池 LR44×2個
重量	: 41g (電池含む)
外観寸法	: 84mm×36.5mm×16mm
〈H×W×D〉	* 突起部は除く

●アンテナUNIT/本体

型式名	: MX-06M(アンテナUNIT)/BX-06M (本体)
技術基準	: ARIB STD-T 67 特定小電力無線局 テレメータ・テレコントロール・データ伝送用無線設備
使用周波数	: 429MHz
通信方式	: 単信方式
送信出力	: 10mW以下
送信時間	: 40秒未満
送信休止時間	: 2秒以上
アンテナ	: 可倒式ラバーアンテナ
動作温度範囲	: -20℃～+70℃
電源電圧	: DC 8.5V～16V
パワー系制御電流	: 最大電流25A・突入電流80A
消費電流	: 通常待機時平均 10mA以下 スリープモード時 850μA以下
重量	: 88g (アンテナUNIT)/135g (本体)
外観寸法	: 163mm×45mm×75mm (アンテナUNIT)
〈H×W×D〉	34mm×120mm×70mm (本体)

使用中に正常に動作しなくなった時は、

まず本書28～29ページの「故障かな?と思ったら」を参考にしてチェックして下さい。
「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店、または当社ユーザーサービス係にお問い合わせ下さい。

保証をお受けになる場合、

お買い上げ店に不具合内容を具体的に提示の上、リモコン、本体、アンテナUNITをセットにして、車検証のコピー、保証書と共にご依頼下さい。なお、保証範囲につきましては、保証書裏面に記載の保証規定によります。

保証対象外の修理について、

保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象にならない場合の修理については、有償となります。保証書裏面に記載の保証規定をご覧ください。

